

区内循環バス事業の現状

令和 7 年 3 月 2 4 日
第 4 回 地域公共交通活性化協議会資料

・利用者数及び事業決算額の推移

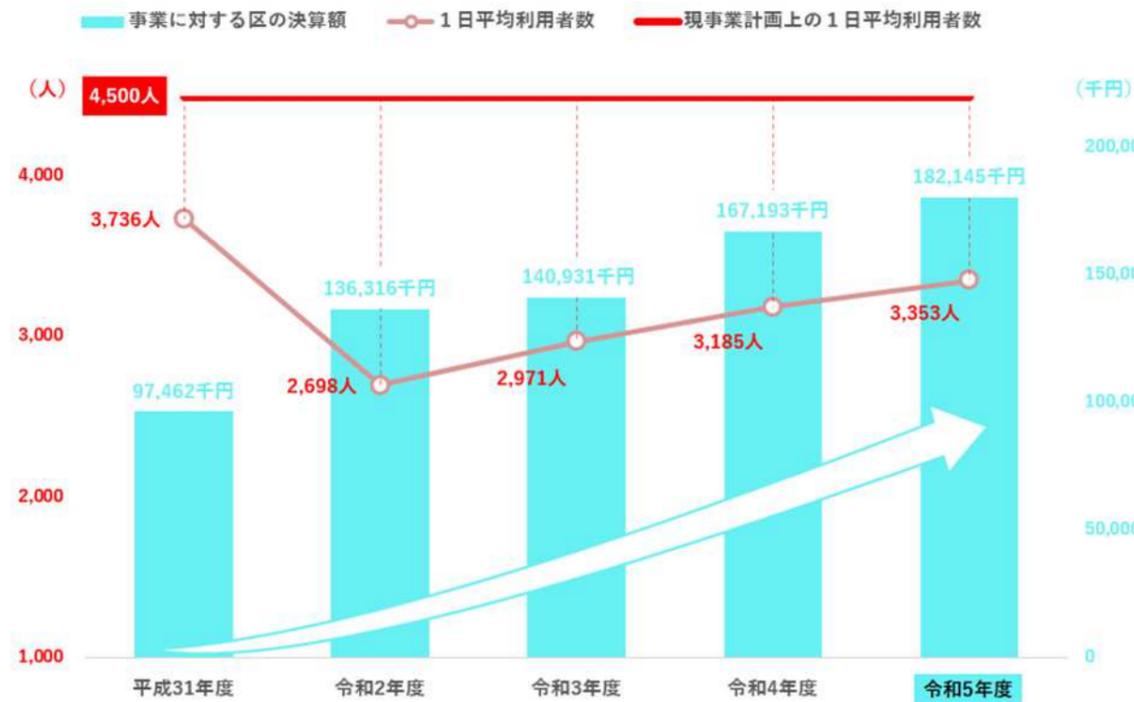


図1 利用者数及び事業決算額の推移（過去5年間）

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度の利用者数は大きく落ち込んでいる。【図1】
- 事業費の内訳として、負担金及び交付金がほぼ全てを占めている。【図2】
(区民1人当たりの税金充当額 約646円)
- 負担金及び交付金には、障害者の乗車に伴う運賃相当分の補助が含まれている¹。【図2:黄色部】
- 区内循環バスの利用頻度を見ると、利用頻度が比較的高い週1回以上の利用者は、全体の1割程度である²。【図3】

¹ 障害者本人及び介助者1名を無料としている。
² 回答者の7割が利用したことがあると回答している。

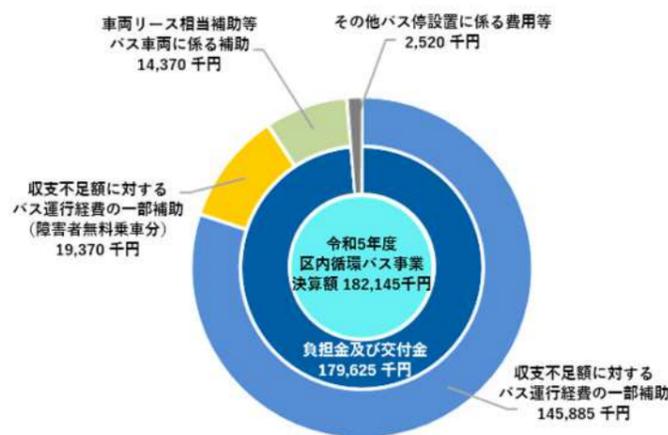


図2 令和5年度事業決算額の内訳

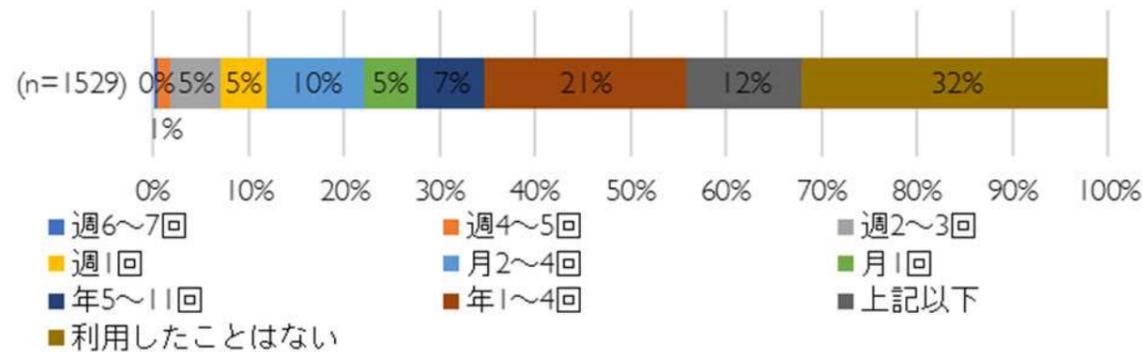


図3 区民の区内循環バスの利用頻度（令和5年度区民アンケートより）

・事業収支の状況

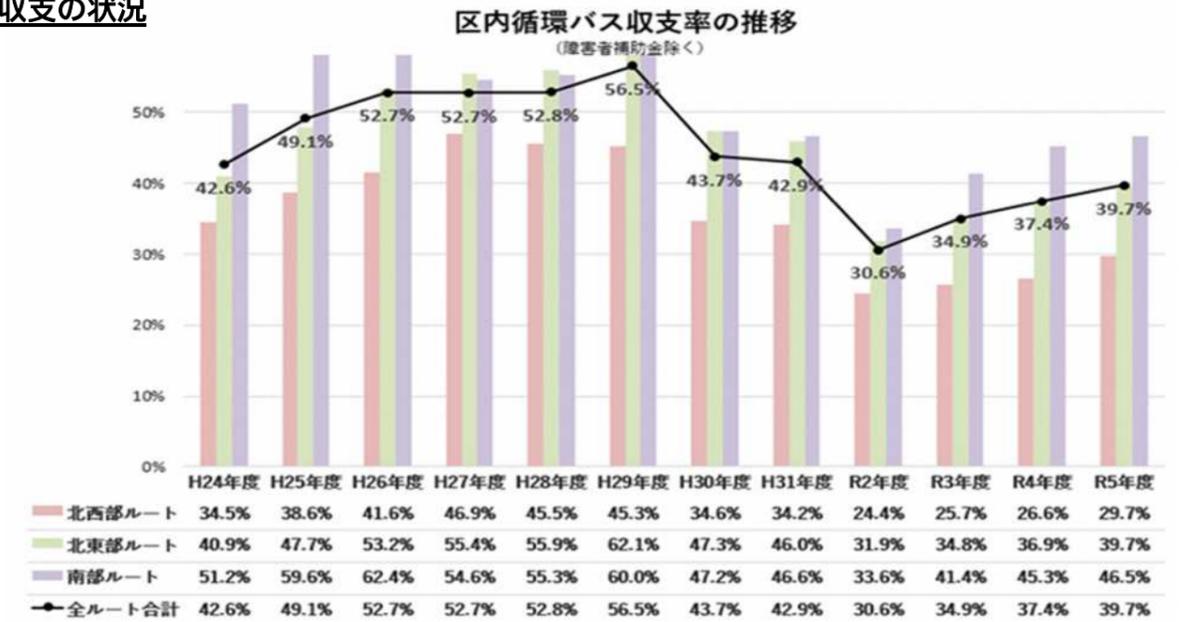


図4 区内循環バス収支率の推移

収支率 = 区内循環バスを運行するに際して、運行事業者が支払った経費に対する収入の割合を表したもの

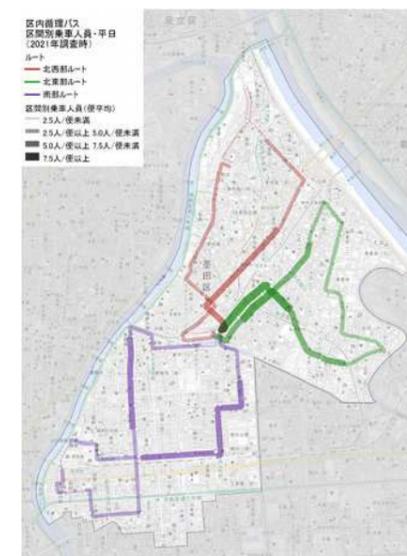
- 令和5年度は、収支不足額を区が全額補助している背景もあることから、運行に係る経費の6割以上を公費負担している状況である。【図4】
- 人件費や燃料油脂費の増加により、原価（運行経費）が増加している。【図5】



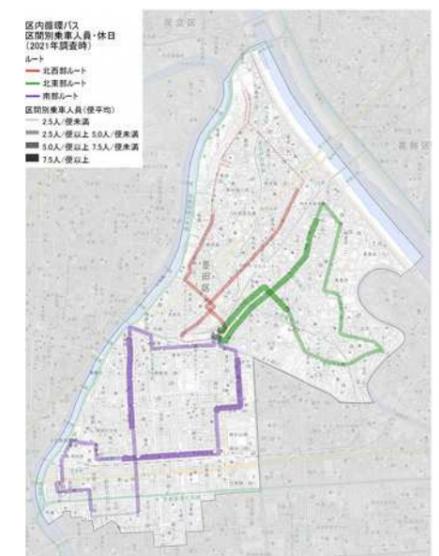
図5 (参考) 乗合バス事業の収支状況 (実車走行キロ当たり収入・原価の推移)

・ルート毎の利用密度の状況 (令和3年度区内循環バス利用実態調査より *ルートも令和3年度の調査時点)

<平日>



<土休日>



- 北西部及び南部ルートの一部について、利用密度が低くなっている。
- 駅から離れた地点において、利用者が少ない傾向が見られる。